令和８年11月20日

釜石市議会議長　千葉 榮 様

報告者　創政会　井筒 健太郎
民政クラブ　佐藤 憲弘

視察研修報告書

1 視察研修の概要

(1)研修期間　令和８年11月11日(水)～11月12日(木)　11月12日は移動日とした。

(2)視察日・研修先

令和８年11月11日　熱海市観光建設部公園緑地課

- 日時:14時00分～15時30分
- 会場:熱海市役所
- 研修テーマ:釣り文化振興モデル港について
- 対応者:　熱海市議会副議長　杉山 恭平
  熱海市観光建設部公園緑地課 維持管理室室長　藤原 秀人
  熱海市観光建設部公園緑地課長　八木 昭寿

(3)参加者　創政会　古川愛明　磯﨑翔太　井筒健太郎
民政クラブ　遠藤幸徳　佐藤憲弘

視察の目的

釣り文化振興モデル港の指定に至った経緯、施設の構造、施設管理体制、事故等の緊急連絡体制等について研修し、本市港湾の利活用に繋げるため調査する。

説明内容

＜事業概要＞　平成14年10月31日に起きた熱海港外防波堤での水難事故(17人が海中に転落し、2人死亡)の教訓を活かし、港湾施設の開放と安全管理体制に充実を図るため、釣りの人気スポットであった当該施設を「海釣り施設」として整備し、観光施設としても活用を図ったもの。

整備年度:平成16年度～17年度　整備主体:熱海市・静岡県

総事業費　約91,450万円（熱海市約43,800万円　静岡県約47,700万円）

＜施設概要＞

1, 安全施設

・転落防止フェンス（静岡県施工）

H＝2.0m　L＝273m　H＝1.1m　L＝40m　H＝0.5m　L＝209m

・救命浮輪　:10箇所（熱海市施工）

・救命タラップ　:5箇所　（熱海市施工）

・防潮門扉　:1箇所　（熱海市施工）　平成30年の台風により被災

2，管理施設

・管理棟　　：1棟（熱海市施工）　台風による被害で、トレーラーハウスに変更　現在２台目

・水飲み、ベンチ、放送施設等（熱海市施工）

3，管理体制

・「NPO法人　SEAWEB」へ管理委託

＜熱海港海釣り施設協力金＞（令和８年３月現在）

大人　500円　見学　300 円

小人　300円　見学　200円

回数券　大人　6000円　小人　4000円

駐車場　500円

入場者　23，154人

＜施設の基本方針＞

風光明媚な熱海港の港湾施設内に安全で快適な海釣り施設を設置することで、市民及び観光客の余暇の活用及び健康増進に寄与するものとする。

＜施設閉鎖　自然条件の種別＞

（1）　波浪　（2）風　（3）潮位　（4）雨・雪　（5）霧　（6）雷　（7）地震　（8）津波　（9）竜巻

＜情報取得＞

気象情報の取得

1，インターネット防災情報

気象庁防災情報から取得した情報を参考とする。

2．テレビ・ラジオ

ニュース等による気象防災情報から取得した情報を参考とする。

3．現地の状況

現地に設置した風向風力計や雷感知器データ、目視などにより判断する。

＜観光施設化するにあたって＞

地域貢献および観光客・女性・ファミリー層の誘致対策

1，貸竿の充実　（女性・ファミリー・観光客が楽しめる環境つくり）

2，釣った魚を「食」させるサービス　（自給自足の体験）

3，日帰り温泉プランの勧め　（温泉がなければ入浴施設でも可。リフレッシュして帰路）

4，施設スタッフによる釣り教室の充実

5，これから釣りを始めたい方の（ブラックゾーン）の開放

6，地域密着型の釣り教室（近隣の小学校、児童養護施設等の釣り体験学習授業）

7，「多目的スペース」の必要性　（干物教室）

8，マンツーマン（個人プライベート教室）の実施

9，釣り業界主体の「釣り講習会」の実施

10，年数回「無料釣り体験教室」の実施

11，各旅行会社に出向き説明会を実施

12，「まちぐるみ」の誘致集客手段の必要性

13，次世代の施設はファミリー層・女性等を誘致し「観光施設」とすることが必要

＜視察の様子＞

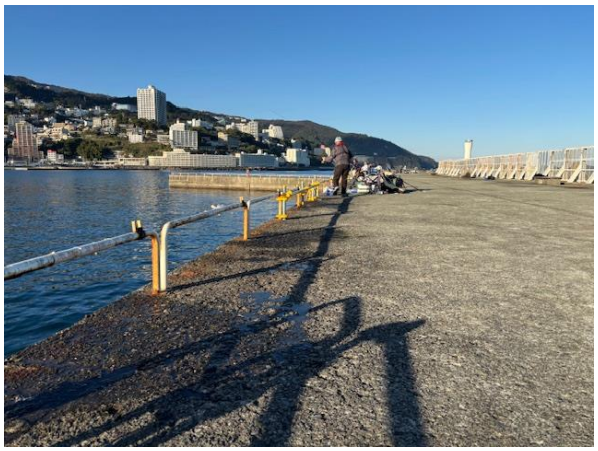






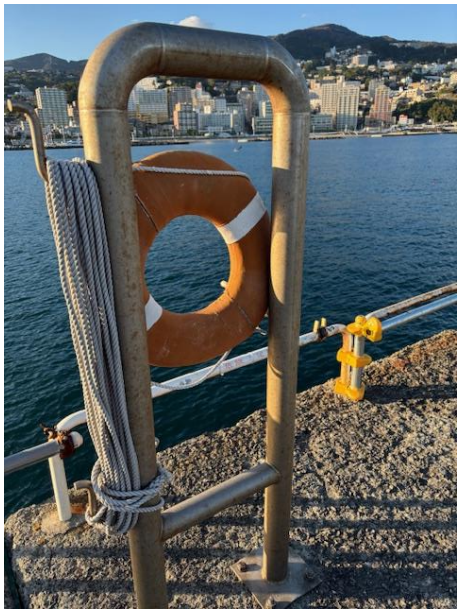












所感

今回の視察では、熱海港海釣り施設が、過去の水難事故を教訓として、安全対策を徹底しながら港湾施設を観光資源として活用していることを学んだ。

特に、転落防止フェンスや救命設備の整備に加え、気象情報や現地の状況を踏まえた施設閉鎖の判断基準を設けるなど、安全管理と施設運営の両立を図っている点が印象的であった。また、NPO 法人への管理委託により、専門性を生かした運営を行っていることも参考となった。

さらに、貸竿や釣り教室、釣った魚を食べる体験など、釣りを目的とする人だけでなく、女性やファミリー層、観光客にも楽しんでもらうための工夫は、観光施設としての魅力を高める上で重要であると感じた。釜石市においても、豊かな海や港湾施設という地域資源を生かし、安全性を確保した上で、釣りをはじめとする体験型観光や交流の場として活用する可能性がある。施設整備だけでなく、管理運営体制や地域事業者との連携、周辺観光との組み合わせも含め、港湾の新たな利活用について検討する必要があると感じた。